

# 支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

## 東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

### にぎわいの近く「歴史と文化のふるさとこみち」 ～周布地区の史跡・文化財めぐり～

東予総合支所の西方一帯、丹原との境にまで広がる周布地区。今治小松自動車道・東予丹原インターチェンジの整備をきっかけに、県道壬生川丹原線沿いには、ショッピングセンターなどの大型店舗や飲食店などが立ち並び、市西部地域の一大商業エリアとして賑わいを見せています。

一方、その県道壬生川丹原線を南に入ると、そこには閑静な住宅街と田園地帯が広がっています。湧水が豊富な周布地区では、これを利用した稲作が弥生時代中期から行われ、集落が形成されていたことが分かっています。奈良時代には、都と伊予の国府を結ぶ南海道が通り、宿場である周敷駅があったことから、地域の政治・経済・文化・交通の要衝として栄え、多くの史跡や文化財が遺されました。



「ふるさとこみち案内図」を参考に散策しませんか

周布公民館の入り口横には、それらを紹介する「ふるさとこみち案内図」が、昭和63年に設置されていましたが、地元篤志家の寄付と史跡・文化財の保護や児童らに対する地域の歴史文化教育などの活動に取り組んでいる「周布地区文化財保護委員会（今井肇会長・会員65人）」のご尽力により、この案内図の見直しと改修が平成22年に行われました。

現在の「ふるさとこみち案内図」には、周布地区に点在する70もの史跡や文化財の名称と位置が示されています。さらに、周布公民館ではそれらを解説した冊子の閲覧もできます。にぎわいの近くでひっそりと今に伝わる「歴史と文化のふるさとこみち」の散策はいかがですか？

## 丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

### 夏の日差しにきらめく「虹の用水」 ～農業の生産性向上と経営安定化を！～

道前平野は、昔から県下有数の農業地帯として発展してきた中山川沿いに広がる扇状地ですが、瀬戸内海式気候に属する少雨地域にあるため河川の流量は乏しく、しばしば干ばつ被害を受けてきており、先人たちはため池を築造するなどの涙ぐましい努力を積み重ねてきました。

その後、恒久的な農業用水確保のため、仁淀川水系に建設された面河ダムから、道前・道後平野へかんがい用水が供給されることになりましたが、この水は四国山脈の山並みを越えて導かれていることから「虹の用水」と呼ばれ、地域農業の振興に大きな役割を果たしています。

また、この用水を利用して、昭和42年度から3年の期間と約1億6800万円の事業費が投じられ、田野・中川地区に



スプリングクライド  
まかれた水が  
きらめく様子は  
夏の風物詩です

広がる樹園地帯に「かん水施設」が整備されました。その受益面積は約309ha、敷設された配管は幹線が約4.1km、支線は約35kmにも及び、ポンプ6台が設置された揚水機場から夏の渇水期に適切なかん水が行われ、安定的な果樹生産が図られることとなったのです。設置から既に40年以上が経過して老朽化が著しいこの施設では、平成22年度から計画的な改修が施されています。

今後は、地域の実情に応じた農業基盤の整備や土地利用の再編などが求められているところです。

## 小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

### 大地震発生！倒壊建物に残された人を救え！！ ～いつ起こるか分からない災害に備えて～

長らく小松町の行政拠点として使用され、今春、役目を終えた小松総合支所別館。このほど解体前のその建物で、のべ35人の隊員が東西両消防署から参加し、4日間にわたる「都市型搜索救助訓練」が行われました。

この訓練では、大規模地震の発生により倒壊した建物内に多数の人が取り残されたとの想定のもと、駆け付けた救助隊員が、エンジンカッターや削岩機等の救助用資機材を活用して搜索経路を確保した後、救助活動を行いました。コンクリートの床や鉄製のドアなどを破壊する激しい振動と騒音の中、隊員たちの懸命な姿によって現場は臨場感と緊迫感に包まれ、現実の災害発生時のようでした。

「実際の災害現場では想定を上回ることも多く、今回の

訓練では、救助活動に必要な技術や知識を再確認するとともに、意識改革が図られた」と語る隊員。その救助服のオレンジ色は、全身から噴き出た汗で深紅に変わっていましたが、表情に頼もしさと心強さを感じました。

この地域では、近い将来での南海地震の発生が予測されています。いつ起こるか分からない地震に対して、発生時の行動や避難場所を日ごろから家族で確認し合うこと、住宅の耐震化を行う

ことなど、一人ひとりが地震に備える意識をもち、危険を予知する力を身に付けることが大切ではないでしょうか。



コンクリートの床を破り、下の階に残された人を救助